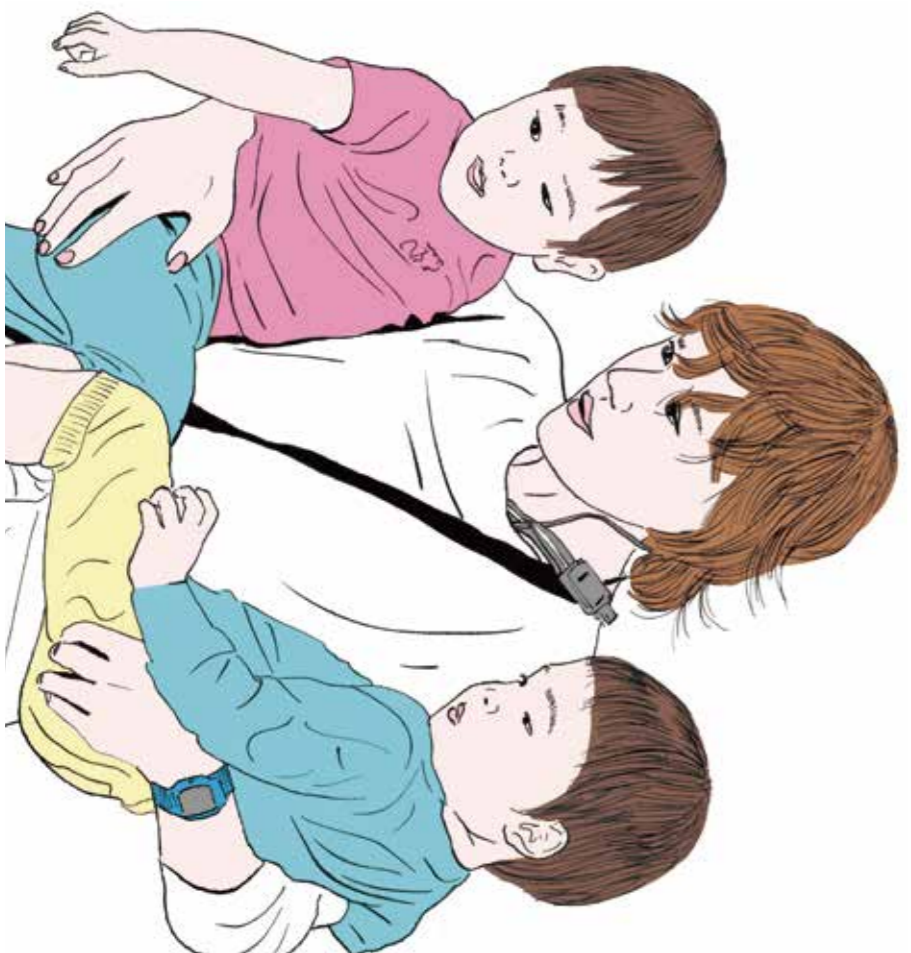




2022年度 事業報告書 発行:社会福祉法人 南山城学園 〒610-0111京都市城陽市富野狼谷2-1 TEL.0774-52-0425 <https://minamiyamashiro.com>



## 基本理念

- 01 **利用者様の尊厳を守り、幸福を追求する。**  
 私たちは利用者様の人としての尊厳を重んじ、一人ひとりのかけがえのない人生に寄り添い、ともに幸福を追求します。
- 02 **地域のニーズにパイオニア精神で取り組み、「共生・共助」の地域づくりに貢献する。**  
 私たちは、社会福祉法人として培ってきた専門性やノウハウを最大限に活かし、地域社会における福祉ニーズに率先して取り組み、課題解決に努めます。  
 また、すべての方が住み慣れた地域で互いに寄り添いながら暮らせる福祉社会の実現に貢献します。
- 03 **いつでも誰もが安心して利用できる福祉サービスを創造する。**  
 一人ひとりの特性に応じた適切なサービスを提供するため、さまざまな事業を展開し、安心して利用できる新たな福祉サービスを創造します。

## 7つの誓い ~職員がめざすべき行動基準~

- 01 **質の向上に向けた意欲と実践**  
 私は、利用者様の幸福のため、利用者ニーズに即応して、結果を出せるよう自らが行動を起こします。
- 02 **ルールと正確性の重視**  
 私は、利用者様、職員など関わるすべての人々の安心・安全のため、ルールを守り正確性を重視します。
- 03 **利用者理解と個別サービスの追求**  
 私は、利用者様の尊厳を守り、利用者様の理解に努め、質の高い個別サービスを追求します。
- 04 **セルフイメージの向上と影響力**  
 私は、社会福祉の一端を担う者としての自覚と自信を持ち、人々に前向きな影響をもたらします。
- 05 **職員の支援と育成**  
 私は、職員として、ともに学び、成長することを、互いの喜び・楽しみとします。
- 06 **チームワークとリーダーシップ**  
 私は、チームの和を大切にしつつ、立場や状況にふさわしいリーダーシップを発揮します。
- 07 **専門性の向上と活用**  
 私は、職務に必要な専門的、組織的能力を身につけ、発展させ、活用します。

## 法人概要

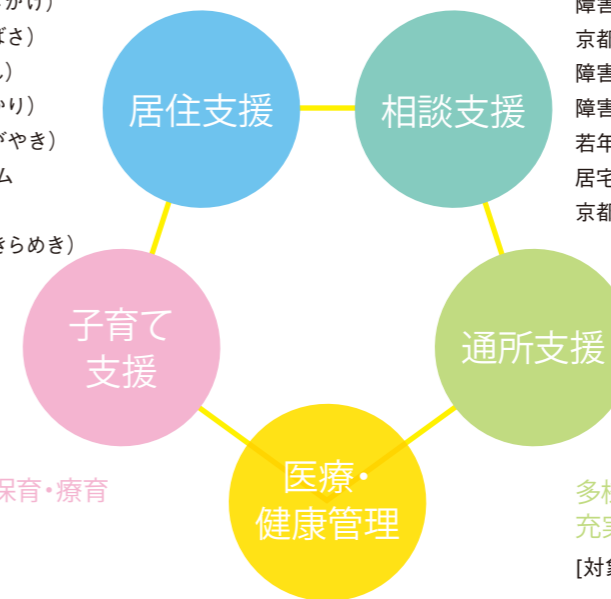
事業内容	第一種・第二種社会福祉事業 (障害・高齢・保育・生活困窮者) 公益事業(診療所・研修事業)	経常収入	約44億4,300万円(令和4(2022)年度実績)
設立	1965(昭和40)年2月	事業内容	京都府城陽市/宇治市 /京都市伏見区・中京区・下京区 /大阪府三島郡島本町
代表者	理事長 磯 彰格		障害31か所/高齢3か所/認定こども園1か所・保育5か所など
職員数	約750名(令和5年4月1日現在)		

## 事業領域

自分らしく  
幸せに暮らせるよう、  
生活全般をサポート

[対象]主に知的障害のある方や  
介護保険適用の高齢の方

障害者支援施設 円(まどか)  
 障害者支援施設 紡(つむぎ)  
 障害者支援施設 和(なごみ)  
 障害者支援施設 魁(さきがけ)  
 障害者支援施設 翼(つばさ)  
 障害者支援施設 凜(りん)  
 障害者支援施設 光(ひかり)  
 障害者支援施設 輝(かがやき)  
 知的障害者グループホーム  
 ショートステイふらっぶ  
 介護老人保健施設 煌(きらめき)



子どもたちの  
主体性を育む教育・保育・療育

[対象]乳幼児

認定こども園 ゆいの詩  
 こども発達支援 Cocoro島本  
 もりの詩保育園  
 小規模保育事業 かぜの詩保育園  
 小規模保育事業 そらの詩保育園  
 小規模保育事業 るりの詩保育園  
 企業主導型保育 すずの詩保育園

医療と福祉の連携により  
安心・安全をサポート

[対象]主に施設利用者様

南山城学園診療所  
 和光診療所

住み慣れた地域での  
暮らしを続けられるよう、  
相談に対応

[対象]障害のある方や高齢の方、  
またご家族の方

山城北圏域障害者総合相談支援センターういる  
 障害児(者)地域療育支援センター ういる  
 障害者生活支援センター はーもにい  
 障害者支援センター じゃすと  
 障害者就業・生活支援センター はびねす  
 京都府地域生活定着支援センター ふいっと  
 障害児(者)相談支援センター リーふ  
 障害児(者)相談支援センター ういっしゅ  
 若年者等就労支援拠点 サザン京都  
 居宅介護支援事業所 すまいる  
 京都市障害者休日・夜間相談受付センター

多様なニーズを受け止め、  
充実した日中活動の場を提供

[対象]地域で暮らす障害のある方や高齢の方

知的障害者デイサービスセンター あっぶ  
 身体障害者デイサービスセンター すいんぐ  
 就労移行支援・就労継続支援A型事業所 さびゆいえ  
 障害者デイサービスセンター わこう  
 児童日中一時支援事業所 ちえりー  
 デイセンター ふらっぶ  
 高齢者デイサービスセンター すまいる  
 通所リハビリテーション 煌(きらめき)

〈連携〉を通じて、多様化する福祉ニーズに対応し、未来の福祉を創造します。

法人創立50周年を機に、2015年に国連で採択されたSDGsを視野に入れ、経営の持続性と地域共生社会の実現を同時にめざす「NEXT Vision 2025」を策定しました。2022年度はその第2次となる「中期経営計画2025」の折り返しの年に当たります。

この3年間は新型コロナウイルス感染症のパンデミックという危機的な事業環境が続きました。しかし、利用者様の安全を守り、地域の福祉を機能不全に陥れないために、リスクマネジメントに力を注ぎながら、事業を継続してきました。

その一方、多様化する地域の福祉ニーズにも積極的に対応してまいりました。

一つは大阪府島本町に開園した幼保連携型認定こども園「ゆいの詩」および併設する「Cocoro島本」です。発達支援の必要なお子さんを含め、地域の子育て支援の拠点となることを願っています。

また、2022年度は〈連携〉がキーワードとなりました。

民間企業と大学等研究機関、当法人による産学福連携(KOUFUKU連携)は、ロボットと利用者様が協働することを可能にし、障害のある方々の新たな労働価値を創造する画期的なプロジェクトです。

加えて、複数の社会福祉法人が手を組んだ「連携型インターンシップ」は、従来の福祉の発想に囚われない創造性を発露し、未来の福祉人材の育成に資するものと期待しています。

さらに、当法人のいくつかの施設がそれぞれ独自に展開してきた農作業、食品加工、カフェ、コンポスト等を一体的に運営する、循環型ファームがたちになりつつあります。

2年後には、「NEXT Vision2025」の次の10年後を見据えた長期経営計画が始動します。

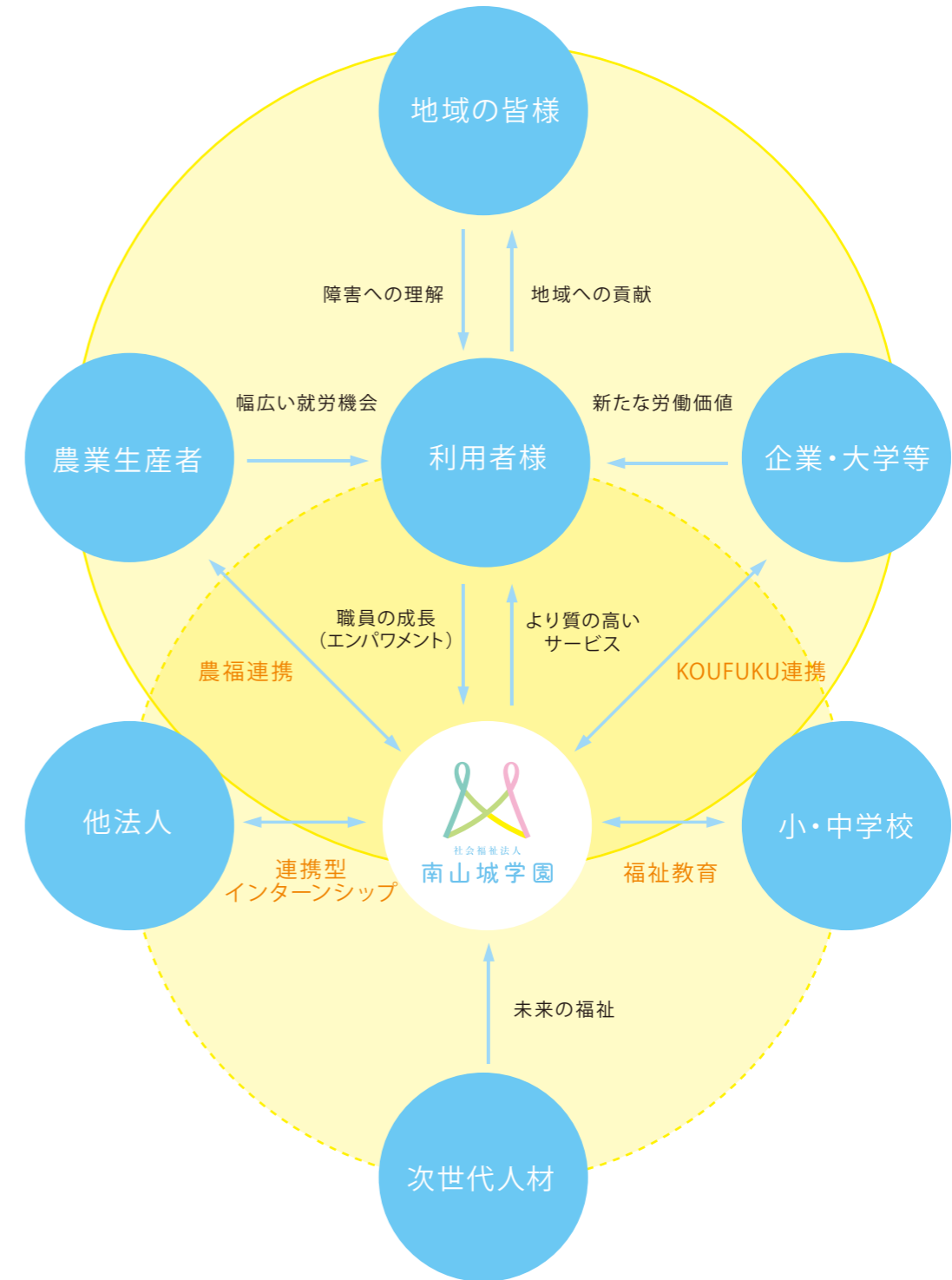
利用者様がまんなかにいる地域共生社会の実現をめざして、いまだ顕在化していない地域の福祉ニーズをつねに先取りし、多角的な経営を展開してまいります。



いそ あきただ 磯 彰格 理事長インタビュー

AKITADAI SO INTERVIEW

利用者様がまんなかにいる地域共生社会の実現に向けて、多角的な取り組みを続けます。



		SDGsにおける目標	2020	2021	2022	
創造性の発揮	<b>1 共生のまちづくりへの参画</b> 教育・農業・地場産業・住民組織など、幅広い関係者との繋がりをさらに強化します。 また、生活困窮者や就職氷河期世代などの支援を包括した、地域共生社会の実現を目指します。		福祉教育 循環型ファーム		健康体操教室(すまいる)	P10 P11 P18
	<b>2 生産性の向上</b> ロボット・ICT技術を活用し、効果的・効率的な業務運営を行います。 また、利用者様の安全確保や健康管理面での先進技術開発に、積極的に参画します。			KOUFUKU連携		P7
	<b>3 研究と実践の連係</b> サービスの質の向上のため、産官学と連携し共同研究・発信を行い、新たな担い手の育成を図ります。 また、他法人と連携し、高齢知的障害者支援に関する共同研究に参画します。		強度行動障害支援者養成研修 コミュニケーション支援(PECS)(光)		連携型インターンシップ	P8 P13 P14
経営資源の有効活用	<b>4 魅力ある職場づくり</b> 育児や介護などライフステージに応じた雇用形態、エキスパートからスーパーバイザーへの昇格制度など、柔軟かつ職員の能力と意欲を高める人事制度を構築します。		スーパーローテーション制度			
	<b>5 人材の確保と育成</b> 学生や一般求職者から選ばれる、魅力ある法人・事業所を目指します。 そのため、育成制度や、多様な働き方に応じた人事制度を確立します。		介護福祉士受験対策講座 ガイドヘルパー養成研修			
	<b>6 就職氷河期世代など、幅広い就労支援ニーズへの対応</b> 生活困窮者・障害者の枠組みを超え、カフェ、食品加工、農作業など幅広い「就労支援サービス」を提供するとともに、福祉的就労・中間就労から一般就労への移行を支援します。				若者等就職・定着総合応援事業	
暮らしの質の向上	<b>7 障害者の多様な生活ニーズ、介護ニーズに対応する「暮らしの場」の整備</b> 障害者の高齢化に対応するため、日中プログラムの抜本的な見直しやハード面の整備を図ります。 また、グループホームを含めた地域での暮らしを支える環境を整えます。		入居施設の個室化・環境整備(和・紡)		廃材を再利用したエコ活動(紡)	P15
	<b>8 リハビリ機能を活かした高齢者・障害者の自立支援の強化</b> 介護老人保健施設・通所リハビリの機能を強化し、地域の高齢者ニーズに積極的に応えとともに、障害者の自立支援にもリハビリ機能を積極的に活用します。		青空介護教室		あおぞらヨガ教室(煌)	P17
	<b>9 異年齢保育を柱とする子育て支援の充実強化</b> 異年齢保育を中心に据えた保育の質の充実を図ります。また、法人が培ってきたノウハウを活用し、子育て支援事業を拡充するとともに、既存の相談事業との連携を強化します。				認定こども園(ゆいの詩)開園 こども発達支援(Cocoro島本)開所	P16 P9
			リスクマネジメント委員会 BCP策定・訓練			P12

## 人とロボットの協働による 労働価値の創造



今日、芸術、スポーツ、農業など福祉と他分野のクロスオーバーから生み出される新たな価値が注目されています。京都府では、障害のある方の就農を支援し、高齢者から若者まで多種多世代で地域を担う共生社会をめざして「京都式農福連携」が進んでいます。当法人では2022年度より、福祉×工業の連携「KOUFUKU(工福)連携」の取り組みをスタートさせました。

産業用ロボットメーカー最大手の川崎重工業株式会社が開発したデュアロは人間と協働するために設計された双腕スカラロボット※です。河川の氾濫や溜め池の監視、高齢者の見守りなどに広く役立てられるセンサー基板の製造において、障害のある方が基板に部品を配置し、duAroがネジ締めやはんだ付けを行い、障害のある方が完成品をまとめて納品する協働作業が実現しました。

※水平方向にアームが動く多関節ロボット。

KOUFUKU連携は、産学連携をデザインする龍谷大学、協働型ロボットの普及を推進する京都大学、センサー製品を開発する和歌山大学等の研究機関と、川崎重工業ならびにロボットSler※の株式会社JOHNAN等の民間企業、そして当法人が連携した産学福連携です。

この連携は、障害のある方たちの仕事を高付加価値化するとともに、世界各国で進むSDGsの目標設定を工業界に提示する起爆剤となる大きな可能性を秘めています。

※ロボットシステムインテグレータ。ロボットを使用した機械システムの設計、組立等を行う。



完成したセンサー基板



人間とロボットがが生産ラインで共存する



未来の福祉人材の育成に向けて  
京都府の社会福祉法人が  
連携・協働

地域社会を取り巻く環境の変化に伴い、今日の福祉ニーズは複雑化、多様化し、高齢者、障害者、子ども、ひきこもり等を支援するサービスを一体的に提供することが求められています。全国に約2万ある社会福祉法人はそれぞれの地域の特色に応じた取り組みを個別に行ってききましたが、複数の法人が連携・協働することで、誰もが暮らしやすいまちづくり、すなわち地域共生社会の実現に向けて歩み出すことができます。

京都府では例年、大学生等が休暇を活用して参加できる夏と春に福祉職場インターンシッププログラムを実施してきましたが、2022年度より、府内2事業所以上の法人が協働して行う連携型インターンシップを導入しました。

当法人ではこれを受け、京都老人福祉協会(京都市伏見区)とオンライン形式で2日間のプログラムを、また、みやま福祉会(京丹後市)とリアル形式で3日間の連携型インターンシップを行いました。学生たちは、異なる福祉の現場を見学しながら、座学では得られない実感の伴った学びを経験します。最終日には、各法人の資源や特色を活用した新しい取り組みについて考え、議論を交わしました。

今後も複数の法人が連携した学びの場を設けることで、福祉のあり方を問い直し、これまでの福祉の発想に囚われない創造性のある人材が育まれることが期待されます。



自家農園ぶちぼんとfarmにて



法人連携が未来の福祉をつくる



Cocoro島本がオープン、  
関西医科大学との連携により  
地域の発達支援の拠点に



2022年4月、大阪府島本町に幼保連携型認定こども園「ゆいの詩」が開園しました。同園では、入園していなくても病児保育や一時保育を利用できます。地域の子育て支援に貢献するこの理念のもと、6月には、こども発達支援Cocoro島本が開所しました。言葉が遅れている、こだわりが強い、集団に入れないなど、発達への気づきから、自治体の乳幼児健診などで療育（発達支援）をすすめられたおおむね2歳～6歳のお子さんを、Cocoro島本では、島本町、高槻市、茨木市から広く受け容れています。お子さんは保護者と一緒に登園し、5名以下の小グループでの集団療育に加わります。併設されている「ゆいの詩」に通園しながらCocoro島本を利用することもでき、子どもたちが同じ空間で遊べるのもメリットです。専属の保育士が常駐するほか、当法人には社会福祉士や理学療法士ら障害支援のスペシャリストが多数在籍しています。さらに、関西医科大学附属病院と連携し、小児科医による発達相談を月1回、実施しています。Cocoroには、子どもたちにとって居心地がよく（Comfortable）、地域（community）に根ざした空間（room）の意味を込めました。一人ひとりの心の動きや発達に丁寧に寄り添う療育を通じて個性を育み、子どもと保護者と職員がともに楽しく成長できる場でありたいと願っています。



一人ひとりに寄り添う療育で個性を育む



選択する経験を大切にしているおやつタイム



街なかの立地を活かした交流を通じ、  
福祉のこころを育む

当法人では、近隣の保育園、小・中学校の児童・生徒との交流を通じ、支え合いながら共に生きるこころを育む福祉教育に協力してきました。障害者生活支援センター「はーもにい」から視覚障害のある利用者様を講師として久御山町立小学校3校に派遣し、また、城陽市立南城陽中学校吹奏楽部の皆さまに「翼」で演奏会を開いていただくなどの点の交流に始まり、現在では、「輝」「翼」「凜」が街なかの立地を生かし、京都市立春日野小学校、城陽市立富野小学校の福祉教育に寄与する面の活動へと広がっています。

「輝」では、2014年度にスタートした春日野小学校との交流を2022年度も継続。4年生の2クラス約40名の児童が「総合的な学習の時間」に「輝」を訪ねた後、職員がクラスに出向き、利用者様が生活する様子などを動画を使って説明しました。子どもたちは熱心に聞き入り、「食事はおいしいですか?」「トイレはどうやってするの?」など、福祉の本質に関わる質問が相次ぎました。また、車椅子6台を貸し出し、子どもたちと一緒に体験することで、保護者の人権意識を高めていただく機会も設けました。

新型コロナウイルス感染症により縮小ないし中止していた保育園との交流（城陽市立今池保育園と「すまいる」、京都市立辰巳保育所と「輝」、清仁保育園と「和」「煌」他）も次年度には再開し、利用者様と子どもたちのふれあう場を創出し、地域共生社会を支える福祉教育に貢献していきます。



初めて押す車椅子



手話体験で当事者の思いを想像する



幅広い就労支援を通じて  
環境に寄与する  
循環型ファームの創造

障害者支援施設「凜」は自家農園（京田辺市）を運営し、40種類近くの野菜を低農薬の自然栽培で育て、「ぶちぼんとkitchen+farm」（城陽市）に直送し、旬の野菜を使ったランチを提供しています。2016年以降、安納芋畑などのオーナー制（代理栽培）を導入し、地域とのつながりを深めてきました。一方、「魁」（城陽市）でも、九条ネギ、聖護院大根などの京野菜を栽培してきましたが、2020年から2施設による農園の一体運営を進めています。今後は就労移行支援事業所としてカフェ運営と食品加工を行う「さびゅいえ」（宇治市）とも施設間連携を図ることで、新たな商品開発の可能性が拓けます。



ファームは地域共生の要

また、「魁」では2021年から、地域の生ごみを回収し、堆肥作りを行うとともに、エコ講座を開催し、地元の皆さまにご参加いただいています。2022年度は、障害者就業・生活支援センター「はびねす」（宇治市）が株式会社星和電機（城陽市）と共催で「コンポストって何なん」と題した学びと体験の場を創出する一方、グループホーム支援室がフードバンクに参加し、利用者様と職員が地域のご家庭をまわり、エコ意識を高めました。「円」（城陽市）では、利用者様の日中活動として堆肥作りに長年取り組み、2020年からは木津川運動公園の除草廃棄物を堆肥化するなど、ノウハウが蓄積しています。こうした各施設の点の活動を面にしていくことで、幅広い就労支援を通じて環境に寄与する循環型ファームの創造をめざします。



コンポストの普及にも努める



福祉に求められる  
BCPの策定と訓練を  
先駆けて実施

さまざまなリスクを想定して対策を立てることは、利用者様の、また職員の安全を守り、ひいては地域福祉を守ることにつながります。本部リスクマネジメント委員会では、この社会的責任を全うすべく、事故対策部会、感染対策部会、大規模災害部会に分かれて取り組みを行っています。事故対策部会では、利用者様の服薬や公用車の運転等における「事故ゼロ」を目標に定め、リスクマネジメント研修を継続的に実施。感染対策部会では、新型コロナウイルス感染症対策に重点を置き、2020年に作成した標準予防策（スタンダード・プリコーション）の更新およびBCPマニュアルの周知徹底等に努めました。



「凜」から「彩雲館」に無事到着

大規模災害対策部会では2022年度、近年増えている豪雨災害を想定した避難訓練を実施しました。障害者支援施設「凜」の立地は、城陽市の水害ハザードマップで木津川が氾濫した際の浸水想定区域に含まれています。超大型台風が九州に上陸し翌朝には近畿地方を直撃する想定で警戒レベル3<sup>※</sup>が発令されたシナリオのもと、「凜」の利用者様全員が「彩雲館」まで公用車等を使って避難する初の水害対応訓練を実施。移動に要する時間を把握し、課題を発見し、BCPマニュアルのブラッシュアップにつなげました。

※「警戒レベル」とは内閣府の定める「災害発生の危険度」で、警戒レベル1～2は気象庁が発表するもの。警戒レベル3は市町村から発令され、高齢者や障害のある方等、避難に時間を要する人が避難を開始するレベルです。

BCPとはBusiness Continuity Planning（事業継続計画）の略で、緊急時に業務を継続するための計画です。2021年4月の介護報酬改定で介護施設・事業者のBCP策定が2024年から義務付けられましたが、当法人の取り組みはこれを先取りするものです。



実際の避難では段ボールベッドを使用



強度行動障害のある方を  
適切に支援し、  
人権を擁護するために

強度行動障害は、ご本人の健康を著しく損ねる行動(自傷、異食等)や周囲の人の暮らしに影響を及ぼす行動(噛みつき、頭突き等)が通常考えられない頻度と形式で現れている状態を指します。強度行動障害のある方は全国に約8000人おられるものと推計されていますが、その支援は家庭はもちろん福祉施設においても困難であり、しばしば虐待等につながりやすいため、適切な支援を行える人材の育成が求められています。厚生労働省では「強度行動障害支援者養成研修」を創設し、2015年度より、この研修の修了者による福祉サービスに保険点数を加算しました。

当法人ではこれを受け、重度の知的障害と自閉症を併せもつ利用者様の多い「翼」「光」のスタッフが中心となり、同年より、「強度行動障害支援者養成研修(基礎研修)」を開催しています。この研修は福祉にたずさわる人材を広く対象とするもので、2022年度は、WEB講義1日、演習1日の計2日間のプログラムを京都府下より170名が受講し、障害への理解を深め、支援の技術の基本を学びました。

次年度以降は、本研修の内容が受講者の働く事業所に定着していくようフォローアップや法人間のノウハウの共有等にも取り組み、この障害をもたれる方々の人権擁護に寄与していきます。



京都府下から170名が受講した



適切な支援を行う人材を養成

## コミュニケーション支援<PECS>フェイズV・VIへ 感情を分かち合うエンパワメントへの期待

「光」の利用者様の多くが知的障害に自閉症を併せもたれています。伝えたい思いがあるにもかかわらず、その伝え方がわからない障害として自閉症をとらえ、「光」では利用者様の7割にPECS(ペクス)※を導入し、コミュニケーション支援に取り組んできました。

※PECS(Picture Exchange Communication System)は話し言葉によるコミュニケーションが困難な方が絵カードを用いてコミュニケーションをとる技法で、I~VIの6つのフェイズからなります。

施設の取り組み

1

障害者支援施設

光



2022年度は1割ほどの利用者様がフェイズV・VIに到達しました。フェイズI~IVでは「お菓子・ください」などの自発的な要求が中心でしたが、フェイズVでは「何が欲しいの?」などの質問に答える応答的な要求を身につけます。さらに、フェイズVIでは「桜・きれいです」などの思いを応答的また自発的に表現することを学びます。コミュニケーションが双方向的になることで、職員を含む支援者は「要求をかなえてくれる便利な相手」から「感情を分かちあえる相手」へと変化し、利用者様と支援者が互いにエンパワメントされることが期待されます。利用者様が思いを伝える経験を積み、暮らしの主体者として地域社会とのつながりを確かなものとしていく一歩となることを信じて、次年度も実践を重ねていきます。





## 捨てられる廃材に生命を吹き込み、 新たな価値を創出するエコ活動

障害のある方々が長年にわたり生活し、平均年齢が70歳を超える「紡」では、農作業、紙すき、本簀ほんすづくりなど利用者様が生きがいを感じられるような様々な日中活動を行ってきました。高齢でも続けられる活動を模索するなかで、2022年度は新たに、廃材を再利用した製品づくり（薪とスウェーデントーチ※）に取り組みました。  
※切れ込みや空気孔を開けた丸太のこと。手軽に焚き火を楽しめるキャンプグッズとして人気があります。



ハンマーで叩くだけで簡単に薪が割れる台を利用した作業はハンマーから手に伝わる感触や割れた時の達成感を味わえ、利用者様と職員の間には笑顔があふれます。安全に作業ができる動画マニュアルを作成し、地域の方にご参加いただける「彩雲祭」で薪割り体験を実施。子どもたちがきれいに薪を割るたびに歓声が上がりました。

次年度は、この薪を燃やしたキャンプファイヤーを囲む交流イベントの開催や、付加価値を工夫した商品化、販路の開拓等を通じ、地域とのつながりを広げていきたいと考えています。



施設の取り組み

2

障害者支援施設

紡

## 地域の子育て支援の拠点をめざして 園庭開放や親子交流イベントを実施

開園1年めで84名の園児が通園する「ゆいの詩」では、子育て世代の方々が地域で安心して過ごせる拠点となることをめざして、在園児童以外の子育て家庭を対象に3つの取り組み（地域子育て支援拠点事業）を行いました。

施設の取り組み

3

認定こども園

ゆいの詩



- 1.園庭開放：緑あふれる園庭を週3回、午前中の1時間開放し、親子や地域の子どもたちの交流の場を創出。298組の親子が参加されました。
- 2.子育て広場：未就学児を対象に、氷や寒天を用いた感触遊びや給食の試食会など様々なテーマで月1回、親子交流イベントを実施。37組の親子にご参加いただきました。
- 3.育児相談：上記に参加された方々の子育ての相談に加え、電話でも随時、相談を受け付け、育児不安の解消に努めました。

「ゆいの詩」が大切にしているキーワードは「子どもが、まんなか」。次年度も、「地域のみんなで子どもを育てる」という思いを皆さまと共有しながら、地域に向けた子育て支援を継続していきます。



## 地域の高齢者の閉じこもりを防ぎ、 介護予防に貢献

「煌」は要介護認定を受けた方が在宅での生活を維持できるよう、入所または通所でリハビリに取り組む介護老人保健施設です。介護が必要になる要因は、脳卒中や転倒・骨折だけでなく、閉じこもりによる心身の機能低下が大きなウェートを占めています。社会との関わりを保ち、目的地まで出向き、人と会って話す日々がそのまま介護予防につながります。



「煌」では、介護予防に向けた取り組みとして、施設内の機能訓練スペースを地域の高齢者に無料開放する日を設けています。2020年度からは、自治会（長池長寿会）の方々にお集まりいただき、「青空介護教室」を開いてきました。2022年度は健康への関心をより高めていただけるよう、「あおぞらヨガ教室」に名称を変更。新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、1回のみで開催となりましたが、ヨガの講師を招き、椅子に座ったままできるヨガ体操を16名の皆さまに楽しんでいただきました。

次年度は、感染対策で中断していた機能訓練スペースの無料開放を再開するとともに、「あおぞらヨガ教室」を複数回開催し、高齢者が外出する機会を増やし、地域の介護予防に貢献していく考えです。



施設の取り組み 4

介護老人保健施設

# 煌

## デイサービスのノウハウを地域に還元する 「健康体操教室」を開催

「すまいる」では利用者様がいつまでも住み慣れた地域で暮らせるよう身体機能の維持・向上とともに認知症予防に取り組んでいます。2022年度は、施設のノウハウを地域に還元するため、「コグニサイズ」※と「脳トレ」からなる健康体操教室を初めて開催しました。

※「コグニサイズ」は、国立長寿医療研究センターが開発した「コグニッション（認知）」と「エクササイズ（運動）」を組み合わせた認知症予防運動プログラムで、楽しみながら脳と体を鍛えることができます。



今池校区社会福祉協議会との連携による出前教室に加え、「すまいる」を運営する地域福祉支援センター「城陽」でも2回開催。新型コロナウイルス感染症対策のため、屋外や少人数での実施となりましたが、すでにリピーターが出るなど好評でした。

次年度は年6回程度の定期的な開催を通じ、地域貢献を継続するとともに、皆さまに「城陽」にお越しいただく機会とし、介護の相談などで気軽にお立ち寄りいただける、地域に開かれた施設をめざしていきます。



施設の取り組み 5

高齢者デイサービスセンター

# すまいる



### マルシェが好評

カフェぶちぼんと(城陽市)では、年2回、マルシェを開催。弁当やスイーツ、花の鉢植や苗、自家農園ぶちぼんとfarmの野菜などをウッドデッキにて店頭販売しています。さびゆいえ(宇治市)、ぶらたん(京都市伏見区)においても、近隣にお住まいの皆さまが参加しやすいイベントを企画運営していきます。

### 緑化を通じて地域交流

マルシェと合わせて緑化イベントを開催しています。利用者様、近隣住民の皆さま、学生ボランティア、スタッフが一緒に花の植え替えを行い、プランターを花壇に並べるなど、自然な交流が生まれる場となっています。



### 子ども食堂を再開

新型コロナウイルス感染症の影響により、学習支援の場に切り換えていた子ども食堂(ダイニングあんさんぶる)を感染対策を施しながら再開。子どもたちの笑顔が戻ってきました。



### 秋恒例の彩雲祭

開催を自粛してきた夏の「和光祭」、秋の「彩雲祭」でしたが、2022年度は「彩雲祭」を3年ぶりに開催。キッズダンスなどのステージ発表、親子でご参加いただけるワークショップ、セミナーなどで地域の皆さまと楽しく過ごすことができました。

### 展示会に出品

円(城陽市)では、利用者様が創作した粘土細工や絵画等の作品を通じて、地域の皆さまとの接点となる場を開拓中です。2022年度は「山背彩りの市」他に出品しました。



### 啓発セミナー

共生・共助の地域づくりには、障害理解の啓発活動も重要なソーシャルアクションです。地域福祉支援センター島本では、地域生活支援拠点としてのノウハウを活かし、成年後見制度や発達障害の理解をテーマとするセミナーの企画運営を行いました。

# DATA 2022

145人

## 障害のある方を支援して就職につながった人数

障害者就業・生活支援センターはびねす、若年者等就労支援拠点サザン京都では、就労へのステップアップをサポートしています。

364人

## 新卒エントリー数

若者人口の減少傾向により、様々な企業が人材確保に取り組むなか、法人の採用計画において新卒のエントリー数および内定へつながる確率は高まっています。

94人

## 実習・インターンシップの受け入れ人数

保育士や社会福祉士、教員になるために必要な実習やインターンシップを積極的に受け入れ、福祉の現場の魅力を伝えています。

23439人

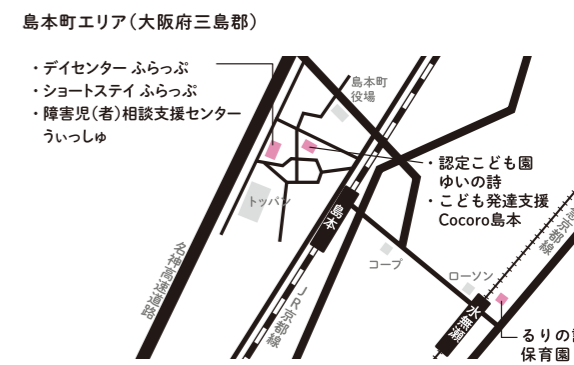
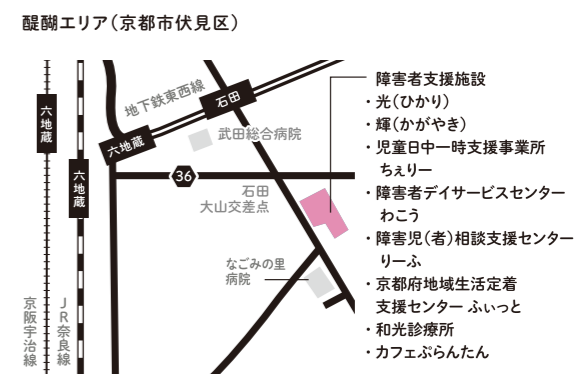
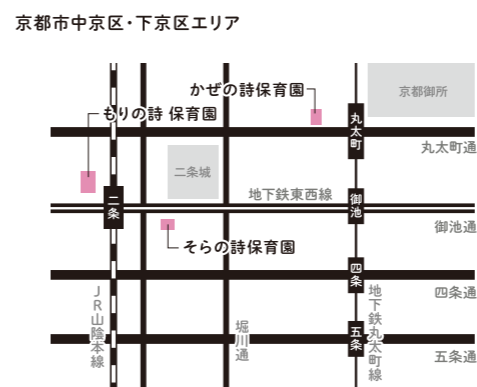
## カフェ（ぷちぼんとkitchen+farm、ぷらんたん、さびゆいえ）を利用したお客様の数

地域と障害のある方の架け橋となることを願って、複数の施設の敷地内でカフェを運営しています。

296回

## 法人内で開催した職員研修の数

職員の質の向上をめざし、積極的に職員向けの研修を開催しています。



## 令和4(2022)年度 法人決算報告

単位:千円

貸借対照表		サービス活動費用計	
流動資産	2,019,360	サービス活動費用計	4,254,581
固定資産	7,195,954	サービス活動増減差額	189,237
資産合計	9,215,314	【サービス活動外増減の部】	
流動負債	522,348	サービス活動外増減差額	△ 1,848
固定負債	549,104	経常増減差額	187,389
純資産の部	8,143,862	【特別増減の部】	
負債及び純資産合計	9,215,314	特別増減差額	△ 351,937
		当期活動増減差額	△ 164,548
		前期繰越活動増減差額	5,022,110
		当期末繰越活動増減差額	4,857,562
事業活動計算書		積立金取崩額	0
【サービス活動増減の部】		次期繰越活動増減差額	4,857,562
サービス活動収益計	4,443,818		